

第47回車座集会意見交換内容（中原区）

- 1 開催日時 令和元年12月2日（月） 午後4時から午後6時まで
- 2 場 所 NEC玉川事業所 共創スペース
- 3 参加者等 参加者19名、傍聴者約7名 合計26名

<開会>

司会：大変お待たせしました。定刻となりましたので、第47回車座集会を開始させていただきます。

私は、司会を務めさせていただきます中原区役所地域振興課の高橋です。よろしくお願いします。

今回の、中原区における車座集会は「もっと『働きやすい』、『住み続けたい』と思える地域づくりを目指して」をテーマとしました。

本日ご参加いただいておりますのは、イツココミュニケーションズ株式会社、NEC、グランツリー武蔵小杉、こすぎの大学、トビラ株式会社、武蔵小杉東急スクエア、ららテラス武蔵小杉の皆様です。

なお、本日こちらの大変すてきなワークショップ用の会場でございますが、NEC様のご好意により、お貸しいただいております。改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

次に、行政からの出席者をご紹介します。

福田紀彦川崎市長、永山実幸中原区長でございます。

それでは初めに、福田市長から一言ご挨拶申し上げます。

<市長挨拶>

市長：皆さん、こんにちは。今日は、お忙しい中、車座集会に参加していただき、ありがとうございます。

今回で、もう47回目になりましたけれども、恐らく僕の記憶の中では、企業さんのスペースをお借りするのは、47回目にして初めての車座集会だと思います。ご協力いただいた、NEC玉川事業所の皆さん、本当にありがとうございました。

それから、こすぎコアパークで実施した「駅前スタンド」、私も参加させていただきましたけれども、本当に楽しい雰囲気、ああいう空間ってすばらしいと思わせていただきました。

住民の皆さんに対してという事は、物すごく考えていますけれども、なかなか行政として、そこに働いていただいている企業の皆さんのことに焦点を当てたイベントですとか、取組というのは、実にすごく薄いということを、今回の取組を通じて改めて感じさせていただいた部分が、たくさんありました。

ですから、今日のテーマで「働きやすいまちはどんなまちか」とか、「もうちょっとここにいたいなと思っていただけるようなまちってどんなことかな」ということを、企業の皆さんといろいろ語り合っていきたいと思っています。今日は、よろしくお願いいたします。

司会：ありがとうございました。ここからはファシリテーターを務めます地域振興課の稲葉にバトンタッチしたいと思います。

<アイスブレイク>

中原区：皆さんこんにちは、中原区役所の稲葉です。

本日の目的は、9月27日に実施した「駅前スタンド」を踏まえて、武蔵小杉駅周辺を働きたくなるまちにするための方向性を得るところですが、少し硬いので、もう少しやわらかく「武蔵小杉を働くのがもっと楽しくなるまちにするためのヒントを得る」くらいのつもりでワークショップを

設定しています。

組織を背負わずに、今日はまず一人の働く人としてご参加いただき、最後の意見交換のときに実現性とか、組織としての参加のあり方などを考えていただくというタイミングで、立場を思い出していただければと思います。それまでは、一人の「働く人」という、フラットな関係で、組織人モードではなく、働き手モードになってワークショップに参加いただきたいと思います。

本日のメニューは、最初に自己紹介とアイスブレイクをしたあとで、イベントに参加されていない方もいらっしゃるのでは、皆で振り返りをします。

その後、第1部ではいくつかのワークショップ、第2部は市長と意見交換という場にしたいと思います。

(自己紹介・アイスブレイク)

<駅前スタンドの振り返り>

中原区：ここからワークショップに向けて、「駅前スタンド」が、どんなイベントだったのかということを中心に振り返ってきたいと思います。

実はこのイベントが最初にスタートしたのも、ここ、共創スペースを使わせていただいて、ちょうど10カ月前ぐらいに行ったワークショップがきっかけです。そこでアイデアを出していった、「働く人」や「ストレス」などのキーワードが出てきたことがスタートでした。

2回目は、グランツリー武蔵小杉さんにご協力をいただき、第3会議室というところをお貸しいただいて、1回目のキーワードをビジネスモデルに落とし、事業の組み立てをするというような、ワークショップをさせていただきました。

9月27日当日は、6時から8時までの夜2時間、こすぎコアパークでイベントを行い、大体600人ぐらいの方が来てくれました。「働く人のストレス解消」をコンセプトに「駅前スタンド」というものを設置して、働く人が笑顔で帰宅できるような、交流の場の創出というものでした。

本当にたくさんの皆様方にご協力をいただき、さまざまなテナントさんにもご出店をしていただきました。

ステージもやらせていただいて、イツコムさん企画で「サラリーマンの主張」など、本当にバラエティー豊かな方に来ていただきました。

また、ボディーズさんの体操やALBIONさんのハンドマッサージ、飲食店も幾つも出ていただき、クラフトビールは37分で売り切れるという、そんな事件が起きてしまいました。

事務局としては、本当に皆様の笑顔も多くて、出店者の皆様からも好評の声をいただきまして、成功だったのかなと思っています。

同時に、一人でふらっと来られた方は、「飲んで、ステージを見て、ブース体験をして帰る」というようなルートを辿ったと思われ、もう少し交流が生まれるような仕組みというものができたらなと感じました。その点、こすぎの大学さんが、ストレスの種を笑顔に変えていくというワークショップをやっていただいて、本当にありがたかったと思っています。

また、実行段階でも企業の方と、より一体的に作れるものや、1社では実現できない形式とか内容みたいなものにも取り組めないかというところも掘り下げていければと思っています。

皆様からいただいた感想を簡単にご紹介します。テナントさんの感想としては、テナントの存在を知らないお客さんにアピールできてよかった、また、夕方の運営体制はギリギリのところであり、2時間というイベントの時間は、ちょうどよかったというお話がありました。

イベント内容の感想として、当初、ターゲットをサラリーマンとしていましたが、ファミリー層の参

加者が多く、よりターゲットが明確になればいいのではないかという感想がありました。ステージの前のオープンスペースにサンドバッグ等を設置していましたが、子供の格好の遊び場になってしまい、それだけ魅力的な空間だったという反面、つくり方という点で、もっとうまくできたりするのかなとも思いました。

そのほかの感想では、地域とのつながりを大切にしていきたいので、今回関わってよかったと言ってくださった企業さんからの感想や、仕事人同士のつながりだけではなくて、個と個のつながりが並行してあるとよいという意見もありましたので、この辺も踏まえて、意見交換をお願いします。

<ワークショップ>

中原区：今日のワークショップでは、最初に「働きたいまちってなんだろうか」というキーワードをいろいろと出し、その後、実際それはどういうことなのかということをお話し合ってください。さらに、実現に向けて、どんな取り組みをしたらいいのかというアイデアを出していくワークショップを考えています。

では、最初にブレインストーミングをやりたいと思います。最初のテーマは、「働きやすい街、働くのが幸せな街と聞いて思い浮かぶもの」は何ですかということです。個人ワークをした後に、グループワークに移りたいと思います。

働きやすい街、働くのが幸せな街ということで、例えば「通勤混雑がない」とか、「ごみが少ない」、「みんなが笑顔」など、これぐらいの単語でもいいので、思い浮かぶものというのを、まずは個人で出してください、出てきたイメージをもとにグループワークをお願いします。

次に、グループワークをもとに、ひとり3案くらい企画案を出していただければと思っています。それではよろしくをお願いします

(個人ワーク・グループワーク)

中原区：ありがとうございました。いろんなアイデアが出てきたかと思います。

各グループ内で出たアイデアを、ご紹介いただきたいと思います。この後、個別のものを壁に貼りだして、眺める時間も設けますので、全体的な傾向や特徴的なアイデアを、簡単にご紹介いただければと思います。それでは、A、B、C、Dのグループ順でご発表をお願いします。

川本さん：Aグループ、川本です。よろしくをお願いします。

いろいろなアイデアが出ましたが、やはり地域とどう関わっていくかという点にいろんな知恵が出ていたかなと思っています。

具体的なアイデアとしましては、シェアオフィスという意味でも、いろんな場所、いろんな企業とさまざまな交流ができる場をつくるというような話が一つ大きくありました。

イベント案で、私が好きだったのは、ランチパブリックビューイングという案で、皆でご飯を食べながら映画を見る。何か最新の話題のトレンドなものをスクリーンで見ながら、みんなでワイワイと食べる場所がどこかにあるといいというアイデアがありました。

また、立ち飲みのかというか、どこか駅前でもいいですけれども、ちょっと立ち寄って飲める場所。ただその場所に行くには、一人一つテーマを持ってきて、自分の言いたいことを絶対一回を言わないといけない。愚痴を言ってもいいし、私こんなことをしたいんですということを話してもらおう。ただ、それをやりすぎると泥酔しちゃうので、一人ビール5杯までなどの制限で、次から次へと人が集まって、いろいろな交流が生まれるんじゃないかというアイデアでした。

そのほかおもしろかったのが、いろいろな商店街の方、企業の方のカードみたいなものを入れて、それをフラッシュして箱の中に入れて、2枚引いて、それと2枚掛け合わせた人たちで、何か一つイベントをするみたいなコラボレーションの案もでした。掛け合わせによって、新しい発想で何が出てくるのかわからない楽しさと、そこで新たな交流が生まれるのではないかなと思いました。

山中さん：Bグループ、NECの山中です。よろしくお願いします。

Bグループは場や空間というキーワードが結構多く、これを題材にアイデアを書かれた人が多かったです。大人と子供が皆で遊べる広場や、広場の使い方として、ただ遊ぶだけじゃなく、そこでちょっとワーケーション的なキャンプみたいな形で仕事しながらという意見がありました。

あとスポーツ系のアイデアで、3カ月に1回何かのスポーツイベントをやりたいとか、昼休みに3on3大会をやりたいとかですね。あとは、場合によってはその広場を自分たちでつくってしまう「空間DIY」という案がありました。自分たちで空間をつかって、スケボーとかをやって、壊れたら自分たちで直すというアイデアがありました。

それから、つながりとか集まりといったキーワードが多く、出会いの空間を大事にするとか、あとボランティアみたいな人を集めて、いろいろと地域の活動をやっていこうというような話がありました。

鉄野さん：Cグループ、NECの鉄野です。どうぞよろしくお願いします。

Cグループでは、「場」に対して、なかなかゆっくりできる場所がないよねというキーワードが出ていました。それに対して、フリースペースをつかって、市民が仕事で自由に使える安全なスペースがあるといいという話があり、例えば公園や企業の空きスペースを使って、誰がどう自由に使ってもいいよという「場」を持ちたいという意見がありました。あるいは、例えば公園には噴水があるところが多いので、そこを足湯にしてくつろいでもらうことで、そこにある意味で子供を見守る場のようにするといったこともアイデアで出ました。

また、趣味の範囲ですけど、シアターオンフライデーナイトといって、金曜日の夜をいかに楽しく過ごせるかということで、映画を見ながら2時間フリードリンクで飲みながら好きなように過ごすスペースをぜひつくってほしいという案がありました。

そのほか、ランチとか通勤などが非常に混むという話があったので、駅前に屋台村なんかを誘致して、ランチとかおやつとかをデリバリーしてくれる。これはショップや商店街の皆さん、給食センターなんかを活用して、おいしい食べ物が随時、必要な人のところに届くような、そういう仕組みがあったらいいなという話がありました。

それから、あとは仕事ですね。ときに手を抜きたいときもあるよねということもあり、お助けチームというのを編成して、テクニカルな部分を求めている人にはテクニカルなサポートが、あるいは家事をやりたくないなというときには、家事をやりたい主婦の人が助けに来てくれると、そういうサポートが何らかで換金できて、経済が回る仕組みまで持っていけると、非常に楽しくなるなという意見がありました。

横山さん：Dグループ、NECの横山と申します。

都市型のノマドワーカーということで、この辺には大きい企業も小さい企業もあれば、フリーで働いている方とか、ノマドワークのスタイルで働いている方などいろいろな方がいます。そういう方の交流を促すために、企業やショッピングセンターの一角を、例えばセキュリティカード1枚で入って行けて、Wi-Fiや電源が自由に使えると。そこで、新たな交流が生まれたり、新たなプロジェクトが生まれるような場が、この武蔵小杉や川崎にたくさんあればいいなというアイデアをいただきました。

また、このNECもそうなんですけれども、結構濃い趣味を持っている方って、いっぱいまちの中にいらっしやって、そういう濃い方がより濃くなるための会というのがあると、まちの色が華やかというか、例えば新幹線を見ながら新幹線を語るなど、そういう何かテーマを持った方が集まれる場というのがあるといいかなと思いました。

最後に、そういうマニアックな方ばかりだと、往々にして運動不足になる部分があるので、毎年コスギンピックというのがここで開催されていて、警察とか消防とか、行政の方を中心に参加されているのですが、なかなか企業の方は参加していないということで、やっぱりマニアックな方はそういうのは嫌いだろかなと思います。マニアックな人間もうまく誘い出せるような、企業の方も、行政の方も、地域の方も皆で運動会ができるようなイベントというのは、ぜひやりたいなというような話がありました。

中原区：ありがとうございました。ワークショップはここまでで終了です。ここからは意見交換を行います。50分時間がありますので、せっかくいろいろなアイデアを出していただきましたので、壁に張ってあるアイデアを眺めるような時間をつくりたいと思います。その後、自由に意見交換ということをやりたいと思いますので、よろしくお願いします。

(それぞれのアイデアを眺める)

中原区：ここからは、自由な意見交換ということで、福田市長にマイクをお預けしまして、働きやすいまちについての意見や、これについてちょっと語りたいみたいなことでもいいですし、個人や企業としてどんな連携ができるか、どのような関係が望ましいかなど、最後の働き手モードと組織人モードを、行ったり来たりしながら、皆さんと意見交換ができればなと思っております。では、お願いします。

<市長との意見交換>

市長：皆さん初対面の方もいると思いますが、初対面とは思えない盛り上がりで、いろいろとアイデアを出していただき、本当にありがとうございました。

僕が気がついたキーワードは、皆さん意外と、空間から解放されたいというか、働いている職場から解放されて、公園や、もっと自由なところで働きたいと思っている方が随分いると思いました。

それからやっぱり、遊びやアルコールも大事だなと。飲めない人もいるので、アルコールに限りませんが、ただ飲食を共にすることで、皆と交流する機会をどうやってつくっていくかというところに、ものすごくニーズがあるなと思いました。

ちなみに、どうなんですかね。仕事が終わって、その後、誰と飲みたいですか。誰と一緒に遊びたいですか。会社の同じ組織の人とそのまま流れて、わいわいやりたい。同じ会社の中の趣味が合うグループだとか、あるいは会社の組織内の人たちと、別の場所で何か遊びたいと思う方がA。全く会社とはかかわりのない、会社以外の人たちと交わりたいというのがB。Aの方。Aの方は4名くらい、すごく迷っておられますね。僕の質問が悪いかな。

関戸さん：両方いいとは思いますが、知らない方の中に、一人で行くのはちょっと心細いなと。

市長：なるほど。それでは、Bの方の中で、一人では嫌だなという方。

意外と少ないんですね。今日の会に参加している人たちは、クリエイティブな人たちで、世代も大体若いかなという感じもありますが、なるほど、一人でもいけるという方が多いんだなと思いました。

また、会社帰りにそういう趣味が合うとか、マニアな人たちが集うとちょっとおもしろいものが生

まれるかなというのが、ぱっと見ていて思いました。

実際にこすぎコアパークでイベントをやってみた次のフェーズとして、実際にこの中のアイデアのうち一つでも二つでも、実現するかというのが次のステップということですね。

ですから、そういう意味で、素晴らしいアイデアはたくさん出ましたが、ここから何か実現可能性というところで探っていきたいと思います。それには個々人で参加していただいていますけれども、組織的に考えると難しいかなということもあると思いますので、ここは個人の意見ですとか、あるいは組織としてという難しいだとかということ、少しご意見いただければと思っています。

今日は、NECさんが一番参加者として多いので、まず野田さんから伺いますが、例えばコワーキングスペースについて、今日はここの場所を貸していただきましたけれども、他にも武蔵小杉のまちの中にいろいろなスペースがあって、例えばショッピングモールのスペースを借りたりとかというのを、どんどんシェアできるような、そういうアイデアがありましたけれども、いかがですかね。

野田さん：まず、個人としては、まちを知るという意味でも、お互いの企業を知るという意味でも、交流する場があるというのは、とても大事だなと思っています。

実は、ここの共創スペースも、多様な方々が集まって、意見が出しやすいように、フランクになりやすいような雰囲気ということをコンセプトに作っていますが、企業もそういったところからいろいろなアイデア、これからのサービス、技術、どんなものがあるんだろうかと思いつくところがあると、個人としても思っています。

今度は企業の立場で、今、私は総務部門ということで、シェアでオフィスを貸せるかという観点で考えると、チャレンジはしたいなという思いは強いですが、乗り越えるべきことは多々あると感じています。例えば、施設を貸すとなったときに、一つ仕事が増えてくるわけですね。そういった現実的なところで、乗り越えなきゃいけないハードルがあると思います。いろいろな企業のコラボというのも、私自身も書いたんですけど、コラボしようと言ったときに、「これは業務ですか」というところが、一つ乗り越えないといけないところかと思っています。

課題はありますが、今、NECは、挑戦する人NECということで掲げており、いろいろなところをチャレンジしていきたいなと思っています。

市長：ありがとうございます。実際、コワーキングとかをやっておられる方に、ご意見を伺いたいと思いますが、石井さんは、武蔵新城もそうですが、いろいろなところでシェアオフィスや、コワーキングスペースをやっているとあるので、そういう立場から、大企業の方も来られるとか、あるいは大企業も巻き込めたという、そういう実現の可能性ありますか。

石井さん：石井と申します。本業は不動産賃貸業です。今、溝の口のほうのノクチカというシェアオフィスの運営にかかわっています。コワーキングといっても、ドロップイン型ではなく、月極の契約型のコワーキングスペース、フリーアドレスのスペースを運営していますが、多分もうNECさんとか富士通さんとかも同じ状態なのかもしれないですが、本社社屋に社員分の席がないという話らしくて、サテライトオフィスも展開しているところもあるようですが、ヤフーさんはコワーキングをうまく利用しているという話が恐らくあるようで、ノクチカのほうを契約していただいて、何人かで利用していただいているという形が出始めています。

多分恐らくなんですけど、テレワークが推奨されていく中で、会社に来なくていいよという人たちがこれから増えていくにもかかわらず、自宅にいちやだめよという、不思議なことが起こるのかなと思っています。そういう意味では、自宅の近くで仕事ができる環境をちゃんと整えるというのが不動産

として、これからやるべきことかなと思っています。地元は武蔵新城ですので、今年1年ぐらいで、そちらでも同じような展開を図っていこうかなと思っているところです。

市長：セキュリティの問題など、運営する中で、課題になっているものはありますか。

石井さん：先ほどのお話のとおりですが、人件費です。一方で、誰がその仕事をするかというところで、実は、IT技術などでいろいろと解決できるものも多く、スマートロックや、コピー機のチャージも非接触のカードでできるなどの状況があるため、それで解決できる部分もあると思っており、溝の口は他のメンバーにかなり任せているところですが、武蔵新城での展開に向けて、検討に入り始めているところです。

市長：なるほど、ありがとうございます。

そういう意味では、非常に高いセキュリティのビルの中に外部の人を入れることは、ハードルが高いけれども、例えば外出するというのはかなり進んできていて、可能性はこれからあるのではないかと感じました。

ショッピングモールなんかは、どうでしょうか。川崎市もいろいろなスペースをグランツリー武蔵小杉さんに貸していただいて、イベントをやらせていただいたりするものですから。グランツリー武蔵小杉の野口さん、いかがでしょうか。

野口さん：グランツリー武蔵小杉の野口と申します。

グランツリー武蔵小杉としては、1階の屋外スペースがまだ活用できていないところもあり、本日、途中退席してしまいましたが、石渡支配人も、そういう屋外スペースは今後活用していきたいという思いがあるとのこと。本日の意見にあった、シアター、パブリックスペース等は、個人的にはすごくいいなと思いました。

市長：運営してくれる人がいれば、問題は解決するよという感じですか。

野口さん：そうですね。それこそ、人員面では、グランツリーとしても数名しか出せないと思うので、それこそ今回の中原区役所が主催でという形であれば実現性も高まると思います。

市長：そういうお申し出をいただけるって、地域にとって、とてもありがたいことですよね。市役所とか区役所が人様のところに行って、土地を出してくださいというのも、なかなか言いづらい部分もありますが、こういう情報が得られると、つなげることは僕たち、結構得意なほうになってきたんじゃないかと思うので。本当にありがとうございます。

野田さん：11月22日に、我々もNECの公開空地を使って、地域の方、子供たちを呼んだイベントをしました。これも、川崎市役所の若手職員のまちのひろばプロジェクトの一環でしたが、そのときに職員の皆さんとも話をして、じゃあ誰がやるのという話をしたときに、結局NECの中はボランティアを募ることになりました。当日ボランティアで16人。寒い日でしたが、地域の方も来ていただいて、職員の方も、そういうような形で、ボランティアも含めていくと、もう少しリソースというのはあるのかなと思いました。実際、子供たちにも非常に喜んでいただいたので、こういう事例は、またグランツリー武蔵小杉さんでもできればおもしろいと思いました。

市長：ありがとうございます。今日は、こすぎの大学の方々も来ていただいておりますので、お話を伺いたいのですが、こすぎの大学は、いつもどちらで活動されているのですか。

山川さん：いつもは中原区役所の5階のスペースを借りて活動しています。

市長：この前は、小学校でもやっていただいたんですね。

山川さん：はい。この前、初めて、小杉小学校のほうをお借りして、やってみました。

市長：なるほど。今後、ほかのところでやっていく可能性はありますか。

山川さん：本当は、いろいろなところでやりたいと思っていて、石井さんのところにも一度出させてもらいました。

岡本さん：本当のところを言うと、最初は大人の集まり場だったので、アルコールを飲みながら、楽しく真剣に学んでいましたが、公共施設で開催する場合は、飲みながらできなくなるところもあります。

市長：なるほどね。実は、この間の車座集会でも話しましたが、やっぱりそろそろ見直しする時期なんじゃないかなと感じています。「公共施設だから料金をとっちゃいけません」、「アルコールはダメです」というと、なかなか時代からずれてきていて、もっと弾力的であっていいという感覚もあるので、これからの大きな課題というか、本当に見直していかなくちゃいけないなと思っています。

しっかりと管理していただければ、公共施設も少し料金をとってもいいとか、お酒は別にいいですよと、そういう柔軟になっていかなくちゃいけないんじゃないかと。だから、それぞれの持っているリソースというか、アセットをどうやってうまく使い勝手のいいように変えていくかというのは、さっきのグランツリー武蔵小杉さんのウッドデッキが、こういう運用ができますよとか、むしろ区役所ならこうできますよとか、ホールをこんな使い方をしてもいいですよと、もう少し自由に開いていけば、スペースの問題というのはこれから変わっていくわけですね。そうすると、こすぎの大学さんも、もっとほかのところでも展開できるかもしれないですね。

さて、皆さんのいただいた意見で、ちょっと補足したいぞという方、いらっしやいませんか。

ちなみに、私は自分で料理をするので、地域にキッチンがほしいなと思っているんですよね。だから、皆でわいわいやりたいと思っているんですけど、なかなかキッチンがないなと思って。

ランチパブリックビューイング。これ、すごいおもしろいですよね。実は夜に開催した企画でしたが、川崎区の競馬場の中の広場を使って映画を見るとか、幸区のラゾーナ広場で映画を見る会なんかが、すごく流行っていて、当日の様子を写真で見たら、ものすごくたくさんの方が「ねぶくろシネマ」とかをやっていました。ですので、夜ができるのだったら、昼もできるんじゃないかと思いました。どこかの会場で12時から1時半くらいに大画面の映画の上映っていいですね。

大橋さん：イツコミュニケーションズの大橋です。ランチパブリックビューイングを思いついたときに、やっぱり昼ご飯を食べる場所って、意外と混んでいて食べられないとかいう経験ないですか。それに、ちょっと気分転換したいよねという気持ちがあるよなと思いました。あと多分、仕事が終わった後は、

実は自分の予定があるから時間を使いつらいということもあると思ひまして、昼の時間に気分よくリフレッシュできることが何かないかなというところて発案しました。屋台村なんかもあると、いろいろ楽しくなってくるのかなと、皆さんの意見を見ていて思ひました。

伊早坂さん：私、トビラ株式会社の伊早坂と申します。私は、こすぎコアパークを管理する協議会の理事もやっていますが、こすぎコアパークでランチができたらいいなという話は以前からありまして、私はイベント会社をやっていますので、椅子や人工芝など持っています、そういったものをお昼の時間だけ、一時的に設置して、今日はこすぎコアパークでランチできますよというような形で、何かを上映することはできることだと思ひます。

あと、キッチンカーを呼ぶ場合は、車ごとの営業許可であるため、保健所への申請も要りませんし、そこで買っただいて、こすぎコアパークで食べるということはきっとできますので、割とすぐにも、実現可能なアイデアじゃないかなと思ひます。

市長：ありがとうございます。必要な機材などは、キッチンカーから少し料金をいただければ賄えるぐらいのものでしょうか。

伊早坂さん：売上具合にもよりますが。

石井さん：音源をブルートゥースで飛ばして、ヘッドホンで有償で貸し出せば事業として成立すんじゃないかな。

市長：それは、おもしろいアイデアですね。この際プロジェクトを組んじやってもいいかもしれないですね。こすぎコアパークさん、東急電鉄さんのご協力があって、あそこも随分解放感のあるスペースに生まれ変わるといふことで、そういうにぎわいづくりに取り組むには、ちょうどいいアイデアかもしれないですね。

岡本さん：来年度はオリンピック・パラリンピックのパブリックビューイングでもいいですね。

市長：何か実現に向けてのちょっとした光がありますね。

中原区：大画面のパブリックビューイングもあると思ひますが、もう少しこじんまりと、「私、この映画を見たいんだけど、誰か一緒に見ませんか」といふ形で、3、4人が乗っかるぐらい企画であれば、収益などを考えずに済むので、そんなマッチングもあるのかなと思ひました。

川本さん：個人としての話ですが、5G（ファイブジー）という新しい技術が出ています。ローカルエリアの5Gという技術があり、まさに映画などのストリームを、このエリアだけで全員が視聴できるようなこともできます。お金が回るような形にしないといけないので、そういうところを皆で知恵を出し合いながら、このエリアだけでそういうコミュニティをつくるというのは面白いかないと思ひます。

市長：そうですね。どうやってお金が回る仕組みをつくれるかという点て、実現するか、しないかのところでもあるので、そこが詰められたらおもしろいことができるかもしれないないという気がしますね。こすぎコアパークは本当に、もっともっと使ったいかなくちやいけないですね。

そのほか、これも、すごいいいアイデアだったですね。独身の方の楽しいパーティー。山川さんが出されたんですよ。

山川さん：割と独身の方もいらっしゃると思っていて、民間での実施より、市での実施であれば、ちょっと安心感があるかなと思いました。

市長：これまでも、市主催で街コンをやってほしいという話は何度かありましたし、商工会議所でお見合いイベントみたいな街コンをやっていましたね。確かにそういう声は市役所内でもあつたりしますし、市内企業とかでも、かなり男性比率の高い大手の企業の方からすると、全く知り合う機会がないから、意外とニーズがあるのかなという気がしますね。

山川さん：「街コン」とか言われちゃうと、ちょっと気が引けてしまうので、少し印象がやわらかい感じの方がいいですね。

市長：なるほど、街コンだと何か本気っぽいので、もう少し、やわらかい感じのもので、でも独身者限定という感じですか。これも実現に向けて、誰かアイデアないですか。

石井さん：「ふらっと1000Ber o」という飲み歩きのイベントを武蔵新城で運営していますが、5、6人のグループで回り始めると席が座れなくなってしまい、相席をしてもらっているお店も出てきています。今のお話を聞いて、無理やり相席にしちゃえばいいんじゃないかなと思いました。

パートナーを探すみたいなのは重たいよという話ですよ。飲み歩いていたら自然に友達が増えるみたいな仕組みにしてあげたほうが、恐らくいいのかなと思うと、そういうアイデアもいいかなと思います。多分お店も、一人ずつ座ってくれたほうが、回転率が上がるので、うれしいと思います。

市長：ありがとうございました。今度は、少し個人というよりも、組織的な会社人間としてのご意見みたいなものはないですか。

先ほど聞いたように、会社の組織として考えると、例えばさっきのランチパブリックビューイングも、1時間半は昼食に出られないから、実現性は難しいとかいう話ですとか、企業の論理からいくと難しそうだなとかいう意見もありますか。

今日はネガティブなことは言っちゃいけないということですが、実現性を追求していくためには、こういうところも難しさがあるなという視点があつたら教えてください。竹内さん、いかがですか。

竹内さん：今の独身の方のためのパーティーの話でいくと、どうやって独身であるということを証明するのかなというのが難しいかなと思いました。

市長：たしかに、聞けないですね。ほかに何かないですか。逆に、会社としてこういうのは協力できるのかというのはないですか。どうでしょう。先ほど濃い人たちの集まるアイデアを出していただいた横山さん。結構、会社に濃い人たち、いっぱいいますか。

横山さん：一見普通に仕事をしていますが、一皮むくと、こんなに濃いのかみたいな人が、私の周りにたくさんいます。巻き込まれがちな感じですけども、恐らくこの武蔵小杉というまちや、川崎というまちは、例えば何か特別な技能があるとか、得意なことがあるという方が多いかなと思っていて、そう

いう方と企業とが一緒に何かをやれるとすると、企業にも、その人たちにも、お互いハッピーなことができないかなと思っています。

市長：この「鉄ちゃん」（鉄道ファン）というアイデアを書いていたのはどなたですか。新幹線も東急もJRもある武蔵小杉で、「鉄ちゃんの鉄ちゃんによる鉄ちゃんのための集まり」。これ、絶対おもしろいと思います。僕の周りにもたくさん「鉄ちゃん」いますから。

笹山さん：私は乗り鉄でして、京急線の弘明寺から横浜までが本当に好きで、今回、フェイスブックで電車のこととかを上げてみたんです。そうしたら、ちょうど相鉄線が入ったことで、ものすごく多くの方が小杉のフェイスブックに上げていて、新しい電車が入るということで、皆さんテンションが上がっているタイミングですので、これを機に良いかなと思います。

市長：これも、かなり実現性高いんじゃないですかね。東急さんに協力してもらって。ちなみに、これは子供もいいんですか。さっき、駅前スタンドの反省で、オープンスペースのところ、大人が集うかと思ったら、子供ばかりになってしまったというお話もあって、ややコアなところで攻めていくと、大人だけでマニアックな「鉄ちゃん」の集まりにしたいとか、そういうのもありますか。

笹山さん：そういうのもいいと思います。

市長：さっきのパブリックビューイング的なことは、設定時間は、会社の帰り時間やランチなど企業の方を想定しつつ、オール世代で、どうぞ企業の方だけでなく、地域の皆さんも来てくださいという形で行って、マニアックな部分を攻めていく企画は、企業の中で声をかけても大きい企業だとたくさんの希望者が出てきそうですし、ランチや帰りのイベントで、ターゲットを絞るような形もできそうですね。

岡本さん：笹山さんは、NECの最上階から新幹線とか見たくないですか。

市長：そういうのもいいですね。

関戸さん：例えば今の鉄道のお話ですと、駅の協力は必要ですが、我々武蔵小杉東急スクエアの土日の飲食店とかがあってあいているんですよね。例えば、そういう場所を用意させていただいて、駅長さんの悩みとか、駅員さんの日ごろの運営とか、そういうお話をさせていただきながら、参加者同士の懇親を深めていただいて、そのまま武蔵小杉駅の裏側、ふだん見えないところとかの御案内とか、いい方向で写真が撮れるとか、東急として提供できるコンテンツもあるので、うまく絡めながら実現すると喜んでいただける方も多いかと思います。

市長：こういうテーマ型でやるとおもしろいかもしれませんね。テーマ型でいって、例えばグランツリー武蔵小杉さんにこういうところでちょっと鉄道で絡みませんかとか、武蔵小杉東急スクエアさんはこういう形で、イツコミュニケーションさんはこういう形でというように、共通のテーマで、「鉄ちゃん集まれ」ができると、意外と面白いかもしれないですね。

こういう切り方をしていくと、いろいろなものが出てきそうですね。地域にこんなに面白い人が働いていたり、住んでいたりするんだということを改めて発見して、二次会やオフ会は武蔵小杉で飲み会みたいな形になると面白いですね。

ちなみに、武蔵小杉に何か特徴的な飲み物ってあるんですか。小杉ソーとか。小杉カレーはありますよね。

中原区：クラフトビールは最近、ナチュラさんがプロデュースした小杉ホワイトがあります。

市長：そういえばお酒に関連して、さっき、こちらのグループで関戸さんが「かけ声」のアイデアを話していましたよね。

関戸さん：武蔵小杉で働く企業の方が、例えば小杉ワーカーみたいなカードを必ず皆さん持っていて、その方が例えば一人でも来店をしたりすると、お店の方のかけ声でお客さんとスタッフ全員が乾杯のときに、「乾杯お疲れさま」とかけ声をかけてくれる。そのカードを持っていると、必ずドリンクが割引になって、今日は一日よかったなと思っていただけるという、心の安らぎじゃないですが、そういう仲間意識をちょっとだけ持つみたいなの。そこから何かまた生まれると楽しいかなと思いました。

武蔵小杉東急スクエアだと、飲食店もそうですし、中に入っている物品販売のお店でも、何かそういう共通のカードを持っていて、見せれば割引になりますよとかいうことは、提供できると思います。でするので、そこで働くことの意味みたいなものを、そののところで見出せるといいかなと思いました。

市長：すばらしいですね。

岡本さん：サントリーさんも、ちょうど武蔵小杉駅と武蔵中原駅の間に研究所があつて、そこで缶チューハイの研究開発をされているから、小杉オリジナル缶チューハイがとか、飲み物じゃなくても、ジョッキをタワーマンションみたいにすることとかもできそうですよね。

市長：そろそろ時間になってしまいました。今日はまとまりませんが、まとまらなくて、でもちょっと何か成果が出せそうな気がしてきました。今日出たアイデアで、二つ、三つは実現しそうな感じがしますね。ぜひ、ここは中原区長、ちょっと、どうですかね。

中原区長：今、お話を聞いていて、実現できそうだなと感じました。実は、今日の新聞に、幸区にある鶴見の機関区にいろいろな機関車があつて、それこそ桃太郎だとか、金太郎だとか、いっぱいあつて、相鉄線の乗り入れがあつたときから、聖地になっているらしいです。そういうことも絡めて、役所の中にも結構鉄道ファンがいっぱいいいますから、プロジェクトを組んで、何かやってみたいなつて。もともと、私は遊び感覚で仕事をするのが好きなものですから、いろいろなアイデアを見て、わくわくしてきました。ぜひ、やってみたいと思います。

市長：いろいろな人がつながると、必ず実現すると、今日は思いました。本当に、いいアイデアをたくさんいただいてありがとうございます。

こんなに短時間で、これだけのアイデアが出て、実現可能性のあるものがいくつか出てきたということだけでも、すごく大きな成果だと思いますし、実際にそれを一つでも二つでも実現してみて、成功事例をつくってということも大事かなと思いますので、次は必ず実現という形に向けて、区役所も一緒になって取り組みをさせていただきたいと思いますので、どうか、これからもよろしく願いたいと思います。

本日はありがとうございました。